

<資 料>

## 広島修道大学とアルバータ大学の授業の比較

大 木 崇

私は2001年4月から2002年3月まで、広島修道大学法学部（法律学科と国際政治学科がある学部）に客員教授として勤務する機会を得た。これは広島修道大学で私が担当した授業科目と授業科目に関連した教務を、私が1988年から1999年まで非常権講師として勤務していたカナダ、アルバータ州のエドモントン市にあるアルバータ大学経済学科における授業科目と比較して、感想を述べたものである。広島修道大学は日本の大学で教えた初めての経験だったので、私の感想に新しい観点があれば幸いである。

### 授業科目の単位構成

広島修道大学では、前期に、特殊講義 B「環太平洋の経済関係 I」、専門演習 III「未来研究演習 I」、英語文書作成 I」の三つの授業科目を担当し、後期に、総合講座 B「環太平洋の経済関係 II」、専門演習 IV「未来研究演習 II」、英語文書作成 II、「カナダ事情」の四つを担当した。

このうち環太平洋の経済関係はアルバータ大学で担当した授業の講義要綱をほぼ踏襲した。しかし、アルバータ大学では、毎週月、水、金、各50分の授業3回を13週で教えていたが、広島修道大学では、毎週1回90分の授業なので、前期と後期に分けた上で、内容を連動させて授業した。

環太平洋の経済関係を始めて一月ほどして、学生に配布した講義要綱に記載されている必読参考文献を学生があまり読んでいないことに気づいた。学生と話し合っただけでわかったことは、広島修道大学とアルバータ大学で授業

科目の単位構成に違いがあることである。基本的なことだが、うっかり見過ごしていた。この単位構成の違いは、教師の教授方法と学生の学習方法に影響を与えるものである。

広島修道大学とアルバータ大学の卒業所要単位数と単位構成を、広島修道大学法学部の国際政治学科とアルバータ大学の政治学科を例にして比べると次のようになる。

**広島修道大学国際政治学科：**

卒業所要単位数は124単位以上。

1学年度は授業期間が前期14週間、後期14週間からなり、前期、後期ともに授業期間の後に2週間の期末試験期間がある。

通常の授業科目は1学期に週一回90分で、これが2単位になる。前期と後期にまたがる通年の授業科目は4単位になる。

1年間の履修登録単位数は最大44単位までで、1学期の平均は15.5単位、学生は平均7または8の授業科目を履修する。

期末試験期間を授業にあてることも可能だが、試験期間中に授業がないとすると、卒業所要授業時間は $124 \times (90/2) \times 14 = 78,120$ 分=1,302時間になる。

**アルバータ大学政治学科：**

卒業所要単位数は120単位以上。

1学年度は前期13週間、後期13週間からなり、前期、後期ともに期末試験は授業期間の後に通常の講義の時間割とは別に2週間設定される。

通常の授業科目は週に150分で、これが3単位になる。

授業は、毎週月、水、金に50分ずつ3回、または火、木に75分ずつ2回が通常であるが、週一回夕方の6時から8時半まで150分の授業科目もある。

学生は前期、後期にそれぞれ平均5の授業科目を履修する。

## 大木：広島修道大学とアルバータ大学の授業の比較

授業科目の卒業所要時間は $120 \times (150/3) \times 13 = 78,000$ 分 $=1,300$ 時間になる。

卒業に必要な総授業時間には2時間の差しかない。大きな相違は毎学期に学生が履修する授業科目数と毎週の授業の時間割構成にある。広島修道大学では、学生は週に一回90分の授業を毎学期に平均して7あるいは8履修する。アルバータ大学では、学生は週に3回、合計150分の授業と週に2回、合計150分の授業を合わせて、毎学期に平均5の授業を履修する。

アルバータ大学方式では毎回の授業時間が短いので一回の授業で取り扱えるトピックは限られる。しかし毎週2回もしくは3回の授業があるので、学生との接触に継続性があり、学生の授業への関心や理解度に応じて授業の内容や進度を調整することがやさしい。前回の講義の記憶が学生にまだ新しいので、教師は前回の授業と今回の授業の関連を短い説明で済ますことが出来る。また50分ないしは75分の授業なので、教師と学生の両者ともに授業への集中力を維持しやすい。

私は、アルバータ大学方式で用意した講義要綱を広島修道大学方式に適応させるために、次のようなことを必要とした。毎回、前週の講義の重要点を講義の最初に指摘して、今週の授業との関連を明確にした。学生が授業の内容を継続して学習出来るように、次回の講義までに読了してほしい参考書を指示した。広島修道大学方式では学生が毎学期、7または8の授業科目を履修するので、各授業科目の学習にあてる時間がアルバータ大学の学生より少なくなる。このために必読参考書の数、小論文の作成、ゼミの自主プロジェクトを少ない時間で出来るように調整した。毎週一回授業の広島修道大学方式では、毎週2または3回授業のアルバータ大学方式にくらべて、学生の自主的な学習意欲を育成することがより大切になると思われた。

### 授業のための参考資料

私の担当した環太平洋の経済関係とカナダ事情の講義要綱には必読参考書のリストを載せた。授業科目の各項目についての参考文献で学生に読んでおいてもらいたいものである。広島修道大学図書館のこの分野の蔵書は豊富である。しかし、同じ本が2冊以上ある場合は少なく、一度学生が借り出した本はしばらく図書館に戻ってこないで、学期中に多くの学生に読んでもらうには工夫が必要である。

ひとつは、必読参考書を複数部図書館で購入することである。また、借り出し期間限定制度を導入することも効果がある。アルバータ大学図書館では借り出し期間限定制度を使用している。教師は授業科目の開始前に、図書館にそれぞれの授業科目について必読参考書のリストを提出する。必読参考書の借り出し期間は2時間、1日と指定できる。この制度で必読参考書の借り出しの回転を早くすることが出来る。

アルバータ大学の高学年生のための授業科目では、教科書を使わずに、専門誌の論文を集めたものを使うことが多くなっている。従来は講義要綱に論文の出典を書いて、学生に図書館にある専門誌を読むか、コピーするかを任せておいた。しかし近年、必要な論文のコピーを集めてパッケージにしたものを大学の本屋で販売するようになった。北米の専門誌に掲載された論文の著作権を取り扱う機関が出来たために、大学はこの機関と契約を結んで論文のコピーを学生に安価に販売できるようになった。教師は授業科目の開始前に論文の出典を書いたリストを大学の本屋に提出しておくだけで、あとは本屋が履修学生数だけのコピーを集めてパッケージにして販売してくれる。学生にとって時間とお金の節約になるサービスである。

社会科学の分野では専門誌の論文のほかに政府機関、研究機関の発行す

大木：広島修道大学とアルバータ大学の授業の比較

る報告書、統計などが重要な参考資料である。近年、これらの機関がインターネット上のホームページで公開する報告書の数が急激に増加している。報告書の中にはホームページだけで公開され、出版されないものもある。これらの資料の検索、整理、分析の方法の学習も学生にとって大切である。

未来研究演習Ⅱでは、それぞれの学生が日本の産業、社会事象を選び、これから10年の動向を考察して小論文を書いた。授業では情報センターのコンピューター室を利用して、インターネット上で公開されている報告書の検索、整理、分析をする演習をした。学生はインターネットの操作が初めての者から、習熟している者まで混在していたが、3回の演習で、インターネット上の資料の検索と保存、資料をもとにした簡単なアクセスデータベースの作成を終了することが出来た。

この程度のインターネットの操作とデータベースの作成方法を学部低学年のための情報技術授業科目に入れておけば、教師は講義要綱にインターネット上の報告書を参考文献として記載出来て便利になる。未来研究演習Ⅱではあらかじめ私がインターネットから集めておいた転載可能な報告書をCD-ROMにコピーして学生に配布した。

アルバータ大学では授業科目のホームページを作る教師が出てきている。毎週の授業項目の説明、予習、練習問題、参考文献をホームページに載せている。練習問題の解答の提出、小論文の提出をホームページで受け付ける教師もいる。ホームページを利用した授業は、新しい可能性を開くと思うが、このためには、学生がホームページへ平等にアクセスできることが必要である。ハード面では大学の施設または自宅からインターネットへのアクセスが可能なこと、ソフト面ではコンピューターとインターネットの基礎的な操作を学習していることが必要である。

## 期 末 試 験

広島修道大学の期末試験は授業期間が終了した次の2週間に、授業と同じ時間割で行われ、期末試験期間中に授業をすることもある。このため期末試験は最長70分に制限される。アルバータ大学では授業期間が終わった次の2週間に設定される期末試験期間中には授業はない。期末試験は毎日午前9時と午後2時の2回が開始時間で、試験時間は各教師が最長3時間まで設定できる。

私はアルバータ大学では2時間の期末試験を行っていた。小論文形式の問題を3題課していた。学生の成績評価は各授業科目について期末試験日から5日以内に学科長に提出する義務がある。学科長が審査して許可された成績評価は教務にまわされて、学生の成績評価原簿に記載される。3年前までは各授業科目の成績評価が決定され次第、各学科で学生の学籍番号による成績評価を掲示していた。しかし、アルバータ州で個人情報保護法が施行されて以来、学籍番号による成績評価の掲示はこの法律に違反するとされて、学生は電子メールで成績を確認するようになった。

### 学生の成績評価

学生の成績評価の方法にはアルバータ大学と広島修道大学でいくつかの相違がある。アルバータ大学では成績は、学生が授業科目の単位を取得出来たか否かの判断のほかに、退学や次年度への進学判断にも使われる。広島修道大学では成績は、授業科目の単位取得の判断だけに使われる。この相違は学生の入学資格審査の相違による。

カナダではごく少数の例外のほか、大学はすべて州立大学である。アルバータ大学もアルバータ州の州立大学である。アルバータ大学には大学独自の入学試験はなく、大学入学希望者の入学審査は書類選考で行う。大学

## 大木：広島修道大学とアルバータ大学の授業の比較

入学願書には高校3年前期の4科目の成績（数学，理科，社会，英語またはフランス語）と毎年3月に行われるアルバータ州高校卒業試験の成績（数学，理科，社会，英語またはフランス語）を添付する。大学は入学希望者の上記の二つの成績の平均値をもとにして入学許可の審査する。定員制の学部では成績の上位のものから選択し，学部の定員数までの入学希望者に入学許可を出す。定員はなく，大体の目標学生数を設定している学部では，最低入学成績基準を設定し，この基準以上の入学希望者全員に入学許可を出す。しかし，入学した学生は授業科目の成績により，第1年次から第2年次に進学できるか否か，また第2年次から第3年次以上に進学できるか否か判断される。

授業科目ごとの学生の成績評価は通常，中間試験，小テスト，授業への出席点，小論文，期末テストの総合で決める。期末試験は成績評価の30%以上70%以下のウェイトを持たなければならない。教師は成績評価の基準を最初の講義のときに学生に説明する義務がある。

授業科目の成績は9段階の数字で次のように示す。

9	Excellent	合格 単位の取得が認められる。	
8			
7	Good		
6			
5	Satisfactory		
4			
3	Fail		不合格 単位は取得できない。
2			
1			

正当な理由が無くて試験を受けない学生の成績はゼロになる。不合格に3から0までの段階があるのは，次のように，学生が大学で授業科目の履修を継続し，次の学年に進学するためには，学生の平均成績が重要だからである。

新入生は最初の学期（9月から12月）の平均成績評価が5.0以上あることが次の学期（1月から4月）に進む条件である。平均成績が4.5から4.9の学生は学部から学業成績についての注意を受け、次の学期に5.0以上の平均成績を取れないと第2年次に進学できず退学となる。平均成績が4.4以下の学生は次の学期の授業は取れず、即時に退学となる。

第2年次からそれ以上の年次への進学に必要な平均成績は、各学科で決定して全学教員評議会の承認を得る。政治学科を専攻している学生の場合は、平均成績が毎学期ごとに6.5以上で、その中で政治学科の授業科目の平均成績が7.0以上でなければならない。

このように成績評価は学生にとって大切なので、アルバータ大学では成績評価基準の管理を行っている。各学部は学期ごとに第1年次、第2年次、第3年次、第4年次の授業科目の平均成績と成績のパーセント分布を計算して全学教員評議会に報告する。これにより学部間の成績評価の基準を管理する。

学部内でも成績の評価基準の管理が行われている。たとえば私が1999年前期に担当した環太平洋の経済関係は2年次の授業科目なので、経済学科の属する人文学部で1998年後期に開講されている2年次の授業科目の平均成績である6.2が基準になる。環太平洋の経済関係の平均成績が6.2プラスマイナス0.2以内になるように成績をつけることが奨励される。授業科目ごとの学生の成績評価は学科長（私の場合は経済学科長）の承認がなければ最終決定にならない。学科長は各授業科目の平均成績と成績の分布を審査する。教師が基準外の平均成績を提出するときは、学科長に理由を説明して承認を受けるか、成績の再評価をしなければならない。

アルバータ大学における成績評価の管理は、州立大学として州民にたい



## 大木：広島修道大学とアルバータ大学の授業の比較

して教育の質の保証をするという意味がある。また学生にとって、良い成績ととることは次年度への進学，医学部その他の専門学部への進学（第1年次と第2年次の成績で医学部への入学資格が審査される），奨学金の獲得，大学院への進学などに大切であるため，大学にたいして公正な成績評価を要求する。

広島修道大学では入学試験により入学資格の審査をする。入学後に学生の成績によって退学または進学を決める制度はないが，標準修業年限である4年間で卒業できなくなることはある。

成績評価は次のような4段階である。

A	80点～100点	合格 単位を取得できる。
B	70点～79点	
C	60点～69点	
D	0点～59点	不合格 単位を取得できない。

試験を受けない学生の成績はゼロであるが，Dではなく「X」と表記される。試験の合格，不合格は，100点満点で60点が基準となり，60点以上が合格である。学生各自の平均成績，学科，学部の平均成績は，アルバータ大学のように点数としては計算しない。大学全体としての明示的な成績管理制度はない。しかし授業科目の成績分布とその科目の履修学生数とは関連を持っているので，教師は担当の授業科目を効果的に教えるために経験的に成績分布の管理を行っている。

### 授業科目の履修取り消し

アルバータ大学では，プッシュボタン電話による授業科目の遠隔履修登録が導入されている。前期（9月から12月）と後期（1月から5月）の履修登録は5月から始まり，履修科目の変更は前期の科目は9月半ば，後期の科目は1月半ばまで可能である。変更締切日以降に科目の履修を止めた

いときは、この科目を担当している学科の許可がいる。この許可をもらうにも期限があり、前期は11月初めまで、後期は3月半ばまでである。許可をもらって履修を取りやめたときは、この授業科目の成績は「許可により履修取りやめ」になり、平均成績の計算に入らない。この期限以降は履修登録を取りやめることは出来ず、もし取りやめた場合、成績評価は「履修不完全」で成績点数は0になり、平均成績の計算に入る。

「許可により履修取りやめ」の規則は、本来は授業科目の内容を十分理解せずに履修登録した学生が、授業開始以降に、授業科目を履修する準備が出来ていない、授業内容が予想と異なっていた、などの理由で履修を取りやめるために設けられたものである。しかし、実際には成績に敏感な学生が、この授業科目で良い成績が取れないと思ったときに、平均成績を下げないように履修を取りやめる目的で使われている。教師はこの「許可により履修取りやめ」期限以前に、学生がこの授業科目での成績評価を予想出来るようなもの、たとえば中間試験の成績など、を学生に知らせることが慣習になっている。

アルバータ大学では、「許可により履修取りやめ」期限が過ぎるまで、何人の学生が単位取得を目指して履修をしているのかわからない。私の経験では最初に履修登録した学生が40人ぐらいの授業科目では、この規則で履修を取り消す学生が2, 3人ある。

広島修道大学では、履修登録していて期末試験を受験しなかった学生は「不受験」となる。私が広島修道大学で担当した授業科目では不受験の学生の割合が、アルバータ大学での「許可により履修取りやめ」の学生より多かった。

## 広島修道大学での担当科目の概要

### 環太平洋の経済関係：

Iを前期の特殊講義Bで、IIを後期の総合講座Bで授業を行い、内容としては連動させて通年で授業した。前期は明治から現在までの日本と環太平洋諸国との経済関係の変遷、後期は第2次世界大戦以降の国際経済関係制度の特徴を講義した。アルバータ大学で担当した授業科目の内容を踏襲したが、英語の参考資料にくらべて、日本語の参考資料は豊富で、講義要綱に数多くの参考資料を載せた。経済関係を歴史的視点から捕らえることが重要なので、経済関係の変遷はアジア諸国の経済発展のパターンと先進工業国のパラダイム変化のパターンとの相互作用で決まるという仮説で説明した。

履修学生数は30人で、アルバータ大学で講義していたときとほぼ同じである。期末試験の小論文の内容から判断する限り、広島修道大学の履修学生とアルバータ大学の学生の間、この授業科目の内容の理解度に差はなかった。

### 未来研究演習：

Iを前期の専門演習IIIで、IIを後期の専門演習IVで授業を行い、内容としては連動させて通年で授業した。前期は長期計画を作成するために必要な趨勢分析とシナリオ分析の方法の演習、後期は学生が日本経済、社会の課題を選び、この課題の今後10年のシナリオを作成した。そしてシナリオ作成に必要な資料の検索、整理、分析の演習を行った。シナリオ分析は、私がアルバータ州経済開発省に勤務していた時に、アルバータ州の経済開発長期計画の資料のために同僚と行っていた作業である。

シナリオ分析では「もしこのようなことが将来起きたら、結果はどうな

るか?」という質問をする。不確実性に満ちた将来をどれだけ柔軟に考えられるかが、シナリオ分析の鍵になる。経済開発省での作業でも、考え方の柔軟性を維持するのが難しく、問題であった。幸いにもカナダ、米国にはシナリオ分析の例が多数あり、経済開発省の作業の中で、不確かな将来の幅を広げることに役立った。この演習のために日本のシナリオ分析の例を探したが、一つの将来像に基づいた長期計画、長期戦略の例はたくさんあるが、いくつかの将来像を比べたシナリオ分析の例が少ないことに気づいた。

未来研究演習は小人数の授業科目なので学生の演習の個別指導が可能であった。広島修道大学にはゼミナール形式の授業科目があるが、アルバータ大学にはない。アルバータ大学でも学部の高学年生のための授業科目は、履修学生数が少ないので、討論と学生の個別指導を主体にしたものがある。しかしこのような授業形式を使うことは、個々の教師の判断に任されていて、広島修道大学のように、すべての学生がどれかのゼミナールを履修できるという制度はない。ゼミナールは学生の個別指導を可能にする特徴ある授業科目である。

#### カナダ事情：

後期だけの授業科目で、カナダの歴史、憲法、連邦制度、政治、経済、ケベック問題、多種文化主義の講義をした。特に多民族移民国家のカナダの特徴である多種文化主義の背景と問題点を詳しく講義した。期末試験では「多種文化主義は、カナダの国家としてのまとまり（カナダのアイデンティティー）にどのような影響を与えるか?」という問題を出して学生各自の意見を求めた。多種文化主義はカナダ連邦政府の政策であるが、カナダでも否定的な意見が少数ある。学生の意見は否定的な見方が多く、日本において多種文化主義という概念の肯定的な見方はなかなか難しいという印象を持った。

**英語文書作成：**

Iを前期、IIを後期に、内容としては連動させて通年で授業した。前期は実務文作成の基礎、後期は実務文作成の個人指導を行った。英語を教えるのは初めての経験なので、私のカナダでの経験をもとに英作文の教科書を作成し、毎週学生に宿題をだして、宿題の添削を行った。日本語で考えたことを英語の基礎文型を使って表現することと、プレイン・イングリッシュという英語圏の実務文の主流になっている文体の説明と演習に重点をおいた。

履修学生の大半は法学部の学生で、第1年次から第4年次までいろいろな学年の学生がいた。英語の習熟度は学生の英語に対する興味によって大きく左右され、学年には関係ないように思われた。習熟度別の授業科目編成が英語の授業科目に効果的だろう。

**英語スピーチクラブ：**

授業科目ではないが、広島修道大学国際交流センターの協力を得て、英語スピーチクラブを創設し、学生を募って2001年6月から2002年2月まで、週一回1時間のクラブの会合を18回開いた。平均12人の学生がクラブに参加した。クラブの運営は、北米で盛んなトーストマスターズクラブの形式をとり、マニュアルにしたがってパブリックスピーチの基礎を練習した。

クラブ参加者には海外英語研修、交換留学、海外旅行の経験者、予定者、希望者が多く、スピーチ能力の必要性を理解して、クラブの活動に意欲的であった。また就職活動を行っているクラブの参加者から、英語スピーチの練習が日本語のスピーチにも役立ったという指摘があった。